

弔 辞

日本鉄鋼協会前会長，日本学士院会員，東京大学名誉教授，正三位勲二等，工学博士，俵 国一先生は，昭和 33 年 7 月 30 日午前 11 時 48 分，87 才の長寿を全うせられて逝去せられました。本会は先生の偉大な御功績を偲び，洵に痛惜の念に堪えず，謹んで哀悼の意を表するものであります。

先生は明治 30 年東京帝国大学工科大学採鉱冶金学科を卒業せられ，同年東京帝国大学工科大学助教授に任ぜられ，明治 32 年鉄冶金学研究のため独逸に留学せられました。明治 35 年独逸より帰朝せられ，我国に始めて鉄冶金学講座が設けられて東京帝国大学工科大学教授に任ぜられ，明治 36 年工学博士の学位を授けられました。大正 12 年に工学部長に補せられ，昭和 7 年停年にて御退官と共に名誉教授を授けられました。この間 30 有 5 年，先生はひたすら後進の薫育指導に精進せられると共に，我国古来の日本刀に関する基本的な研究解析に当られ，この研究を完成して大正 10 年帝国学士院賞を受けられました。また昭和 10 年に「冶金学上より見たる日本刀の特色」について，天皇陛下に御進講申上げました。大正 14 年には勅旨を以て帝国学士院会員を仰付けられました。また多年にわたる我国の学術技術に関する勲功により，昭和 21 年に文化勲章を授けられました。

先生は当時未だ黎明期にあつた我国の製鉄技術の育成発展を意図せられ，志を同じくする者の協力を得て，大正 4 年に日本鉄鋼協会を創立せられ，理事，評議員を歴任せられて，大正 11 年に第 4 代会長，昭和 5 年には再度第 8 代会長として協会の事業達成に尽力せられ，今日の日本鉄鋼協会隆盛の基礎を確立せられました。

この間，日本鉱業会会長，日本工学会理事長，日本金属学会，等多数の学会の役員を兼ね，工学院大学理事長となり，また学術研究会議，等多数の学術研究委員会の委員長として我国の学術技術の進歩発達に貢献せられました。特に日本学術振興会第 19 委員会，および第 54 委員会の委員長として我国の製鉄，製鋼技術に劃期的な発展をもたらした原動力となられました。製鉄製鋼界の今日の隆盛は，先生の貴重な御研鑽に負う所まことに大であり，先生の絶大な御努力の賜であります。先生のこの貴い偉大な御功績は，先生の崇高な人格と蘊奥をきわめた学識，および卓越せる識見のもたらした，他のよくする能わざる所であります。

先生は晩年すべての後進に慈父として敬愛せられ，先生の温容は参ずる者に希望と発奮の糧を与えられ，先生の米寿の近きを思い，その慶びを共にいたしたきものと念じておりました。

しかも今は先生の譬咳に接する能わず，先生の教えを仰ぐに由なく，邦家のため誠に哀惜おく能わざるものというべきであります。しかし先生の偉大な生涯は，常に後に続くものを教え導き，先生の御功績を永遠に不滅なものとするのでありましよう。

本会は茲に先生の偉大な御功績を追憶すると共に，謹んで哀悼の意を表し，御霊の安らかな御冥福を祈るものであります。

昭和三十三年八月二日

社団法人 日本鉄鋼協会会長 塩 沢 正 一